

第34回電波功績賞表彰式を開催

6月26日（月）、第13回定時総会に引き続き、第34回電波功績賞表彰式を開催しました。当会の漆間会長の挨拶に続き、柘植総務副大臣からご祝辞を頂戴し、功績賞選考委員会の伊丹委員長代理よりご挨拶いただきました。続いて、柘植総務副大臣から総務大臣表彰の受賞者の方々に、漆間会長から電波産業会会長表彰の受賞者の方々にそれぞれ表彰状が授与されました。

表彰状授与後、受賞者を代表して要海様（KDDI株式会社 執行役員常務）よりご挨拶がありました。



電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列 坂田様 早川様 鷹取様 北條様 酒井様 浅井様 森田様 阿瀬見様 藤井様 内田様 小岩様 奥村様 井上様 新井様 水村様 車古様 渡里様

前列 竹村総合通信基盤局長 要海様 藤井様 伊丹選考委員長代理 柘植総務副大臣 漆間会長 米田様 西澤様 豊嶋電波部長

1 総務大臣表彰

(1) 「O-RAN・VRANの実用化、オープンフロントホールを用いたMU-MIMOで商用展開を開始」

KDDI株式会社 次世代基地局プロジェクトチーム

代表 要海 敏和 殿(KDDI株式会社 執行役員常務 技術統括本部 副統括本部長)

オープン化した仮想化基地局の5Gスタンドアローン(SA)商用通信に2022年2月に世界で初めて成功するとともに、既存4G基地局と連動した5G Non SA方式にも対応、また、オープン化した仮想化基地局を複数ベンダー構成で構築し周波数利用効率の高いMulti-User MIMOを世界で初めて実現し、2023年1月から大阪市内の一部エリアでの商用展開を開始するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「災害対応ドローン無線中継システムの商用導入、及びそれを活用した遭難者位置特定支援」

国立大学法人東京工業大学

代表 藤井 輝也 殿(国立大学法人東京工業大学 工学院 電気電子系 特任教授)

ソフトバンク株式会社

代表 米田 進 殿(ソフトバンク株式会社 基盤技術研究室 担当部長)

双葉電子工業株式会社

代表 西澤 栄一 殿(双葉電子工業株式会社 ロボティクス開発部 UAV課 課長)

衛星通信経由で移動通信網に接続する機能を持った無線中継元装置(親機)と地上から有線ケーブルで電力を供給し上空100mに長期間停留飛行するドローン無線中継装置(子機)で構成される災害対応無線中継システムを開発し、2022年7月から全国の拠点に順次配備して実災害時に運用するとともに、それを活用した遭難者端末の位置特定システムを開発・実証するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

2 一般社団法人電波産業会会長表彰

(1) 「Beyond 5G / 6G 向け増幅器技術の開発」

三菱電機株式会社

代表 坂田 修一 殿（三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 マイクロ波技術部
増幅器グループ 主席研究員）

Beyond 5G / 6G において、無線部の共用に必要な複数周波数帯で動作する増幅器技術を開発し、1 台の増幅器による 3GHz 帯以上の複数周波数帯での動作実証を世界で初めて成功させ、2023 年度中の商品化を予定するとともに、通信周波数帯が異なる 4G と 5G の両方の周波数帯での動作実証にも成功するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「2.4 / 5GHz 帯マリンデータ伝送システムの開発」

古野電気株式会社 マリンデータ伝送システム開発チーム

代表 早川 達也 殿（古野電気株式会社 船用機器事業部 開発設計統括部 開発部
レーダー機器開発課）

船団を構成する複数の漁船に魚群探知機やソナーの映像を送受信できる無線ユニットを設置して無線 LAN を構成し、秘匿性を保ちながら安全に魚群探知機やソナーの映像などの漁労情報をやり取りして各漁船間で共有できるようにするとともに、双方向の音声伝送にも対応したマリンデータ伝送システムを開発するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「IoT 向け広域無線 LAN IEEE 802.11ah の制度化および実用化」

802.11ah 推進協議会

代表 鷹取 泰司 殿 (802.11ah 推進協議会 副会長)

NTT ブロードバンドプラットフォーム株式会社

代表 北條 博史 殿 (NTT ブロードバンドプラットフォーム株式会社 取締役)

東日本電信電話株式会社

代表 酒井 大雅 殿 (東日本電信電話株式会社 経営企画部 営業戦略推進室 担当部長 / 株式会社 NTT アグリテクノロジー 代表取締役社長)

日本電信電話株式会社

代表 浅井 裕介 殿 (日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所 無線アクセスプロジェクト グループリーダー・特別研究員)

一般社団法人無線 LAN ビジネス推進連絡会

代表 森田 基康 殿 (一般社団法人無線 LAN ビジネス推進連絡会 渉外・広報委員会 副委員長)

富士通株式会社

代表 阿瀬見 隆 殿 (富士通株式会社 サービスインフラ事業本部)

株式会社フルノシステムズ

代表 藤井 慎 殿 (株式会社フルノシステムズ マーケティング本部 企画室長)

IoT 向け無線 LAN である 802.11ah を日本において実利用可能とするために、伝送特性評価を行い、アンライセンス無線システム間の共存評価手法の確立及び技術的条件の明確化を行うとともに、802.11ah 無線システムを活用したユースケースの創出や展開シナリオを検討し、また、国内電波法令の改正及び国際標準規格の改訂に寄与し、対応無線機を開発するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(4) 「60GHz 帯ミリ波大容量無線伝送の高速移動体適用技術の研究開発」

日本電信電話株式会社

代表 内田 大誠 殿 (日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所 基幹方式グループ 特別研究員)

株式会社 NTT ドコモ

代表 小岩 正明 殿 (株式会社 NTT ドコモ 移動機開発部 無線技術担当 担当課長)

ドコモ・テクノロジー株式会社

代表 奥村 幸彦 殿 (ドコモ・テクノロジー株式会社 携帯事業部 通信制御技術部 部長)

WiGig などの端末局が同時に複数の基地局と接続し無瞬断で基地局を切り替えることが出来る技術や、基地局と接続しながら他の基地局を観測する機能のない非移動体無線通信においても、高速移動体に対して適切な基地局選択により無瞬断の大容量無線伝送を実現する技術を開発し、鈴鹿サーキットにおいて実システムに近い構成で実証するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(5) 「ミリ波帯での高効率なエリア化を実現する 5G マルチセクタアンテナ屋内基地局に関する研究開発」

株式会社 NTT ドコモ

代表 井上 祐樹 殿 (株式会社 NTT ドコモ 無線アクセス開発部 主査)

国立大学法人横浜国立大学

代表 新井 宏之 殿 (国立大学法人横浜国立大学 大学院 工学研究院 教授)

日本電業工作株式会社

代表 水村 慎 殿 (日本電業工作株式会社 キャリア事業部 第1開発部
アンテナ技術グループ グループ長)

富士通株式会社

代表 車古 英治 殿 (富士通株式会社 モバイルシステム事業本部
ワイヤレスオフアリング室)

電波のビーム形成にアナログのアンテナ技術を組み合わせ、回路規模を従来の 1/10 に削減しつつ、360 度全方向を一つの基地局でカバーし、3GPP 採用のビーム制御方式の適用が可能であり、また大規模な平面アレーアンテナと同等のアンテナ利得を達成した基地局を開発し、2023 年 1 月には 28GHz 帯で 5G を用いた無線ビーム制御を行った実証実験に世界で初めて成功するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(6) 「5G-SA ネットワークスライシングの実用化」

KDDI 株式会社 5G SA スライス開発プロジェクトチーム

代表 渡里 雅史 殿 (KDDI 株式会社 技術統括本部 ネットワーク開発本部
ネットワークスライス開発部 部長)

5G のスタンドアロン構成 (5G-SA) において SLA (Service Level Agreement) 保証型のネットワークスライシング技術を開発し世界で初めて実証実験に成功すると共に、2023 年 3 月には東京マラソン 2023 において、放送事業者とともに SLA 保証型ネットワークスライシングを用いた生中継を行い、地上波放送の番組制作に活用する実証実験にも世界で初めて成功するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。



表彰式における
漆間会長の挨拶



表彰式における
柘植総務副大臣のご祝辞



表彰式における
伊丹選考委員長代理のご挨拶



受賞者を代表して
要海 敏和様のご挨拶